

## Presbyphagia（老人性嚥下）の特徴に関する研究

### 1. 研究の対象

2008年4月から2017年3月までに当院耳鼻咽喉科・摂食嚥下センターで嚥下造影検査を受けられた方

### 2. 研究目的・方法

加齢とともに嚥下機能すなわち「飲み込む力」は低下してきます。健康高齢者の嚥下機能は、食物が誤って気道に入る「誤嚥」などの嚥下障害と異なり、老人性嚥下と呼ばれます。老人性嚥下の特徴に関する研究は、これまでもいくつか報告されていますが、75歳以上の後期高齢者を対象とした研究は、ほとんど行われていません。私たちの研究では、過去9年間に嚥下障害を疑われて杏林大学医学部付属病院耳鼻咽喉科・摂食嚥下センターを受診されて、嚥下造影検査を受けた方の中で、誤嚥や明らかな嚥下障害を認めなかった方を対象とします。これらの方々を、非高齢者、前期高齢者、後期高齢者の3つの群に分けて、施行済みの嚥下造影検査のデータを診療記録（カルテ）で確認して、比較することで、明らかな嚥下障害の無い高齢者、特に後期高齢者の嚥下機能（老人性嚥下）の生理的特徴を明らかにすることが目的です。この研究により、嚥下に関する健康長寿の解明につながると考えます。

### 3. 研究に用いる試料・情報の種類

年齢・性別とともに、嚥下造影検査の際に観察した、飲み込む反射のタイミング（嚥下反射惹起性）や、食道の入り口の開き具合（食道入口部開大）、のどに造影剤が残った様子（咽頭クリアランス）等を診療記録（カルテ）で確認します。

### 4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない

範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としますので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

**照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：**

**東京都三鷹市新川 6-2 0-3**

**電話 0422-42-5968 (耳鼻咽喉科医局)**

**担当者：杏林大学医学部附属病院耳鼻咽喉科 唐帆健浩**

**研究責任者：**

**杏林大学医学部附属病院耳鼻咽喉科 唐帆健浩**

-----以上